



天理市文化財だより Vol.36

特集1

老農 中村直三の軌跡

「中村直三関係資料」文化財指定記念

前編

特集2

令和6年度発掘調査速報

2026.3 天理市教育委員会 文化財課

晩年の中村直三

なかむらなおぞう とうのう
中村直三は今の天理市永原町出身の**老農**（農民出身の**農業指導者**）です。
 群馬県の船津伝次平、香川県の奈良専二と並び、「明治三老農」の一人として知られ、農業指導者として活躍しました。

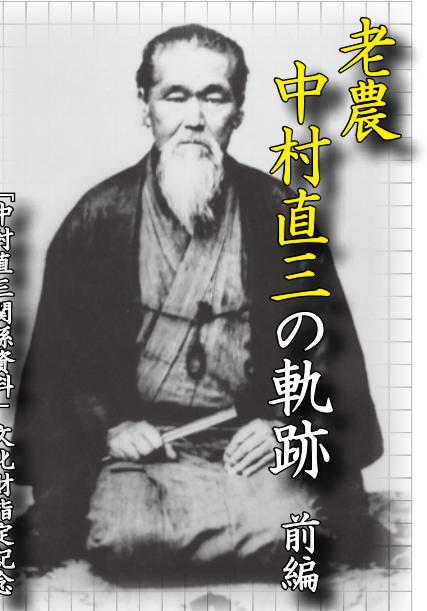
令和7（2025）年に「中村直三関係資料」702点が天理市指定文化財に指定されたことを記念し、現代に残された資料から直三の農事改良活動の軌跡を前・後編でご紹介します。

『中村直三関係資料』文化財指定記念



中村直三（1819-1882）

奈良県出身の篤農家で「明治の三老農」の一人。農家に生まれた彼は、地域を豊かにするために実証的な農業研究に後半生を捧げた。試作田を設け、全国から収集した稲種の選別や優良種の普及に尽力。また、平易な農書『勸農微志』を著し、農民目線の技術指導をおこなった。明治維新後は全国を歩き、全国区の「老農」として活躍した。



老農
中村直三の軌跡
前編

明治3年（1870）〔凶作に際し勸農に付建言〕

直三が十代のころ天保の大飢饉の有様（「貧民餓死夥敷」）を目の当たりにした衝撃を述べ、直三が農事改良活動を志す原体験となったことがうかがえる。

*天保の大飢饉（1833年～1839年頃）直三によれば、永原村付近では、とくに天保7年（1836）以降が厳しかった。



文久2年（1862）『勸農微志』

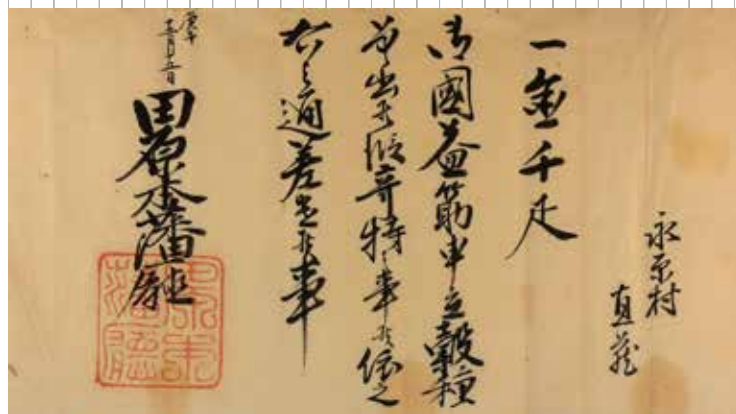
直三43歳頃の著作。肥料の改善（堆肥小屋の設置、池の底土や尿尿の活用など）を説く。漢字にふりがな、挿絵や図など、農民が読みやすい工夫されている。



慶応3年（1867）
〔八嶋寄組合村々畔田依頼人名前書〕

直三は農村の窮乏を救うため、優良種を普及することで主穀の増産を図ることを志す。

幕末期の直三は奈良奉行所配下の警察組織に属していた。直三は大和国内に張り巡らされた組織のネットワークも活用し、優良種を収集したり、各地に植え付けを依頼した。写真は「畔稲」（陸稲の一種か）の試作に関する文書で、現在の奈良市内の村々（八嶋村・藤原村・古市村・鹿野園村・横井村・神殿村・出屋敷村）が見える。



明治3年（1870）
〔御国益筋申立穀種差出奇特に付金1000疋下賜状〕

廢藩置縣の前年に田原本藩が発給した褒賞状。幕末から明治初年にかけて農業指導者としての声望を高めた直三は、奈良府（県）、五條県、大和に所領を持つ各藩（芝村・柳本・郡山・田原本・高取・櫛羅・小泉・柳生の8藩、久居・津の両藩）に招かれて指導し、その功勞により各藩から褒賞されている。

*写真はすべて天理市指定文化財「中村直三関係資料」（個人蔵）

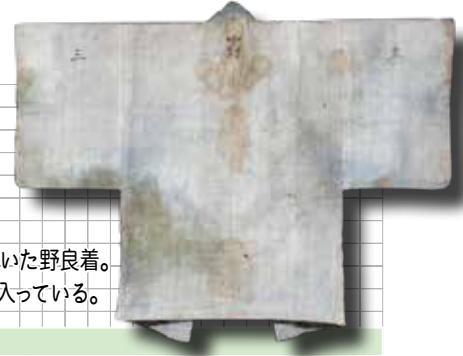
中村直三関係年表

直三の居村であった山辺郡永原村を含む奈良盆地の農村は、江戸時代後半には農作物の価格下落や肥料代の高騰などにより農業経営が不振となり、農業外の稼ぎを生計の支えとする層が増加していた。幕末開港以降の経済変動は、米穀の猛烈な物価騰貴という形でこうした人々を直撃した。

安政2年(1855)、36歳で中村家の当主となった直三は、農村の窮状を打開するため、農業に精励し米穀の増産を図ることで地域を豊かにしようとした。

〔直三着用野良着〕

直三が生前に着用していた野良着。「中村直三」の文字が入っている。



| 中村直三関係年表 | | | | 社会情勢 | | |
|----------|------|----|--|------|------|--|
| 年 | 西暦 | 年齢 | できごと | 年 | 西暦 | できごと |
| 文政2 | 1819 | 0 | 3月8日、大和国山辺郡永原村(現天理市永原町) 善五郎・さか夫妻の長男として出生 | 文政8 | 1825 | 異国船打払令 |
| 文政8 | 1825 | 6 | 長柄の寺子屋にて紀州の浪人某に学ぶ 天保飢饉を経験 | 天保8 | 1837 | 大塩平八郎の乱 |
| 嘉永4 | 1851 | 32 | 父善五郎の生地である平群郡竜田村で鋳物商として農具販売に携わる | 嘉永6 | 1853 | 米提督ペリー浦賀に来航 |
| 安政2 | 1855 | 36 | 父善五郎病没(61歳) 直三が中村家の戸主となる | 嘉永7 | 1854 | 日米和親条約 安政東海地震・南海地震 |
| 安政3 | 1856 | 37 | 永原村農民騒擾に対応 | 安政2 | 1855 | 安政江戸地震 |
| 安政6 | 1859 | 40 | 永原村で越訴に対応 | 安政3 | 1856 | 米総領事ハリス下田に来航 |
| 万延元 | 1860 | 41 | 村内騒擾の静定に尽力した功で高取藩より賞詞を受ける | 安政4 | 1857 | 日米修好通商条約の交渉開始 |
| 文久2 | 1862 | 43 | 著作『勸農微志』『柴割木を焚きのばし功徳を積む話』 | 安政5 | 1858 | ころり病(コレラ)流行 日米修好通商条約 安政の大獄 |
| 文久3 | 1863 | 44 | 稲の優良種の蒐集試作配布を始める 著作『大和穂』 | 安政6 | 1859 | 横浜開港 |
| 元治元 | 1864 | 45 | 種籾購入のため、心学社の有志より資金を集め、近村に配布する 著作『台所経済法』 | 安政7 | 1860 | 桜田門外の変 |
| 慶応元 | 1865 | 46 | 著作『伊勢錦』『気やしなひらくなづくし』 | 文久元 | 1861 | 対馬事件 |
| 慶応2 | 1866 | 47 | 著作『ちわら早稲』『お米に虫のいらぬ法』 | 文久2 | 1862 | 坂下門外の変 和宮降嫁 生麦事件 |
| 慶応3 | 1867 | 48 | 著作『刀の教訓』『病の戒』『京女郎』『日加護災難除開運髻の守』 | 文久3 | 1863 | 下関事件 薩英戦争 新撰組誕生 天誅組の変 |
| 明治元 | 1868 | 49 | 著作『畑稲』『乍憚口上』『御世の恩』 永原村他11ヶ村の耕地実測に協力し、減租につながる 大和国内兇賊捕縛の功により賞詞並びに大小刀を受く | 元治元 | 1864 | 池田屋事件 禁門の変 下関戦争 第一次長州征討 |
| 明治2 | 1869 | 50 | 耕地調査の功及び農事改良の功を賞される(奈良府) 芝村、郡山、高取、久居、田原本、柳本の各藩より稲種撰入の功その他を賞さる 名字帯刀を許され、中村を名乗る(帯刀は辞す) | 慶応元 | 1865 | 兵庫開港要求事件 |
| 明治3 | 1870 | 51 | 「民益書」を上申 『(凶作に際し勸農に付建言)』 田原本他六藩及び奈良府より農事改良を賞される | 慶応2 | 1866 | 薩長同盟 第二次長州征討 |
| 明治4 | 1871 | 52 | 熊本藩より農耕見習生二名を受け入れ 付近各藩及び鹿児島藩より農事改良を賞される | 慶応3 | 1867 | 大政奉還 王政復古 ええじゃないか |
| 明治5 | 1872 | 53 | 奈良県監察に任せられる 桑苗の試作をおこなう | 慶応4 | 1868 | 戊辰戦争開戦(鳥羽・伏見の戦い) 五箇条の御誓文 9月明治改元 |
| 明治6 | 1873 | 54 | 熊本の見習生帰国に際して稲種を熊本へ送った謝礼に、熊本より良種を贈られる 奈良県監察を辞す | 明治元 | 1869 | 東京奠都 版籍奉還 戊辰戦争終結(箱館戦争) |
| 明治7 | 1874 | 55 | 穴師神社祠官 「募兵之儀御願」 | 明治2 | 1869 | 平民苗字許容令 |
| 明治8 | 1875 | 56 | 奈良県庶務課雇、植物試作掛 内務省勸業寮よりアップランド綿の種子を受け、京都府雇農牧教師ウェードに習う | 明治3 | 1870 | 大和一円が奈良県となる 岩倉遣外使節 7月廃藩置県 郵便開始 |
| 明治9 | 1876 | 57 | 1月、稲種2品献上を賞し、勸業寮より果樹苗 36 種贈られる 3月、奈良県へ試作中の優良稲種 76 種提出 6月、奈良県の堺県編入により解任 | 明治4 | 1871 | 壬申戸籍 鉄道開通(新橋・横浜) 大区小区制実施 学制公布 太陽暦実施 |
| 明治10 | 1877 | 58 | 2月、秋田県へ赴任、3月、同県腐米改良掛主任、4月、同県勸業掛 第1回内国勸業博覧会に稲種 321 種(うち大和産 246 種)を出品 中村家の戸主を子の直平に譲る | 明治5 | 1872 | 徴兵令 地租改正条例 征韓論 |
| 明治11 | 1878 | 59 | 秋田県勸業博覧会審査掛 11月帰国 | 明治6 | 1873 | 民撰議院設立建白書 佐賀の乱 台湾出兵 |
| 明治12 | 1879 | 60 | 4月、石上神宮氏子間の水論を調停 5月、宮城県勸業御用掛 | 明治7 | 1874 | 大板会議 第1回奈良博覧会開催 平民苗字必称令 |
| 明治13 | 1880 | 61 | 堺県勸業掛 大和の平坦部と山間部の連絡の計画を建言 | 明治8 | 1875 | 地租改正反対一揆 廃刀令 奈良県が堺県に編入される 神風連の乱 萩の乱 秋月の乱 |
| 明治14 | 1881 | 62 | 4月、第2回内国勸業博覧会に米 742 種・綿 27 品種を出品 9月、石川県の招聘により石川県を巡回、帰途福井県・滋賀県も巡回 | 明治9 | 1876 | 西南戦争 コレラ流行 第1回内国勸業博覧会 |
| 明治15 | 1882 | 63 | 3月20日、農商務卿西郷従道より特別名譽賞を受賞 5月12日、「農事に功ある先人」の慰霊祭を永原村御霊神社で挙げる 8月11日、コレラを発病 8月13日、死去 勾田村(現天理市勾田町) 善福寺墓地に葬られる | 明治10 | 1877 | 大久保利通暗殺 竹橋騒動 郡区町村編制法により大区小区制廃止 |
| 明治32 | 1899 | | 奈良公園内に「中村直三農功碑」建立 | 明治11 | 1878 | 琉球藩廃止・沖縄県設置 |
| 大正6 | 1917 | | 朝和村三味田町(現天理市三味田町)に顕彰碑建立 | 明治12 | 1879 | 全国に国会開設運動 |
| 昭和38 | 1963 | | 天理市永原町に試作田跡碑建立 | 明治13 | 1880 | 明治14年の政変 堺県が大阪府に編入される |

(主要参考文献)

- 安田健 1954「中村直三と農事改良事蹟」『日本農業発達史: 明治以降における』第2巻 中央公論社
- 谷山正道 2023「農業のリーダー 中村直三の足跡」『Vol.2 大和の国のリーダーたち』奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書シリーズ2
- 谷山正道 2024「中村家文書について」『天理市永原町中村直三家文書調査報告書』天理大学人文学部歴史文化学科学科歴史学コース
- 澤井廣次 2024「伊勢本街道新開路及び宇陀川分水と中村直三の建言」『天理市永原町中村直三家文書調査報告書』同上
- 黒岩康博 2024「顕彰する/される直三」『天理市永原町中村直三家文書調査報告書』同上
- 幡鎌一弘 2024「中村直三の周辺」『天理市永原町中村直三家文書調査報告書』同上

*「老農 中村直三の軌跡」後編は次号『天理市文化財だより』Vol.37 で特集予定です。

〔中村直三顕彰碑建立時の写真〕

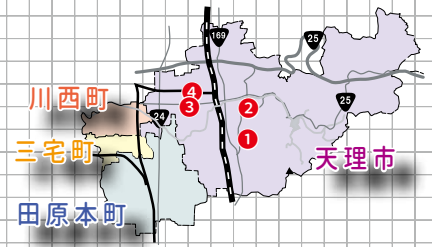
直三の没後に建立された顕彰碑。現在も天理市三味田町に現存する。



令和6年度発掘調査速報

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は令和6（2024）年度におこなった3件の発掘調査と、天理大学との共同調査1件をご紹介します。

- ① マバカ古墳第5次
- ② 東乗鞍古墳第9次
- ③ 平等坊・岩室遺跡第39次
- ④ 平等坊・岩室遺跡第40次



マバカ古墳 第5次

まばかこふん

①



期間 令和7年1月28日～
令和7年3月5日

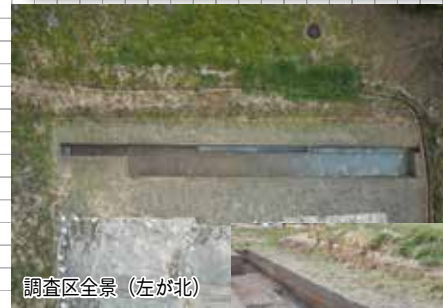
マバカ古墳は天理市萱生町・成願寺町にまたがって所在する、古墳時代前期の前方後円墳です。天理市では令和4年度から範囲確認調査を実施しています。

今回の第5次調査は後円部北側で実施し、後円部墳丘裾と考えられる地山の立ち上がり（こうえんぶみんぎゅうすそ）と周濠（しゅうわう）を確認しました。墳丘裾と考えられる地山の立ち上がりは上部を里道構築時に削平されていたことがわかっており、高さ40cmが残存していました。葺石や基底石は確認していませんが、立ち上がり始めの標高値と前年度第4次調査の前方部基底石の標高値がほぼ同一の標高値であるため、この立ち上がりを墳丘裾と捉えることができます。周濠は上幅10.9m、底幅10.0m、深さ0.06～0.4mが残存していました。周濠内では遺物の出土はありませんでしたが南半で葺石転落石を確認しています。周濠北端の地山直上では黒色土器の破片が出土していることから、遅くとも9世紀頃には周濠が削平されていたと考えられます。

また前年度の調査区（第4次調査区）南端を再掘削し、葺石の断ち割りをおこないました。その結果、墳丘の裾部には裏込め等は見られず、地山と盛土に葺石および基底石が据えられている状況を確認しました。



マバカ古墳（左が北）



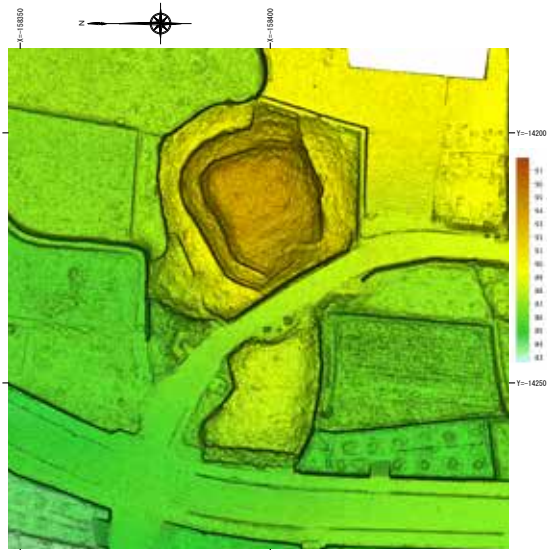
調査区全景（左が北）



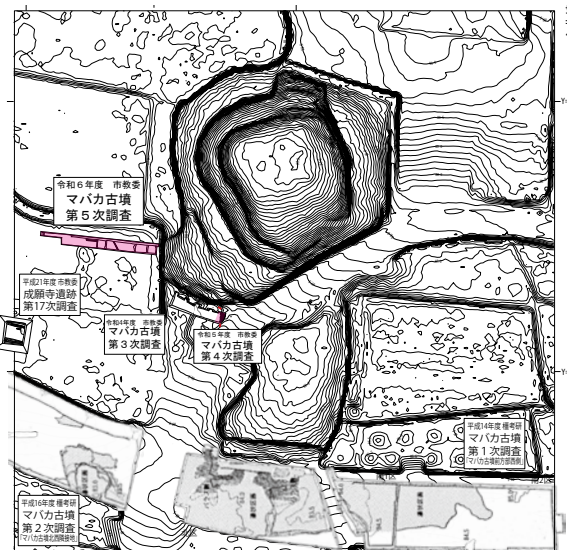
令和6年度調査区東壁（南西から）



令和6年度調査区 墳丘裾検出状況（北西から）



マバカ古墳標高段彩図



マバカ古墳調査区配置図

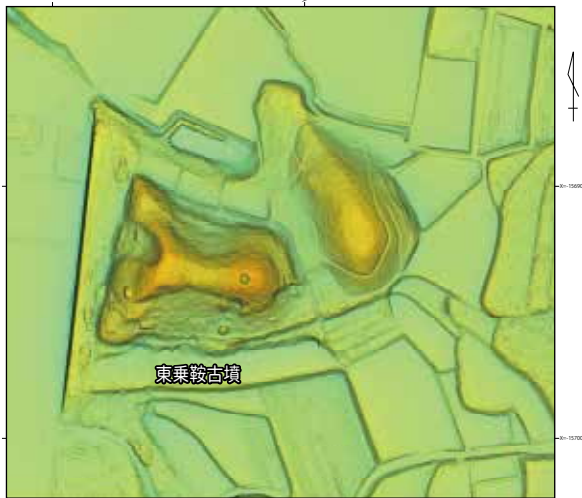
東乗鞍古墳 第9次

天理市教委・天理大学共同調査
ひがしのりくらこふん

②



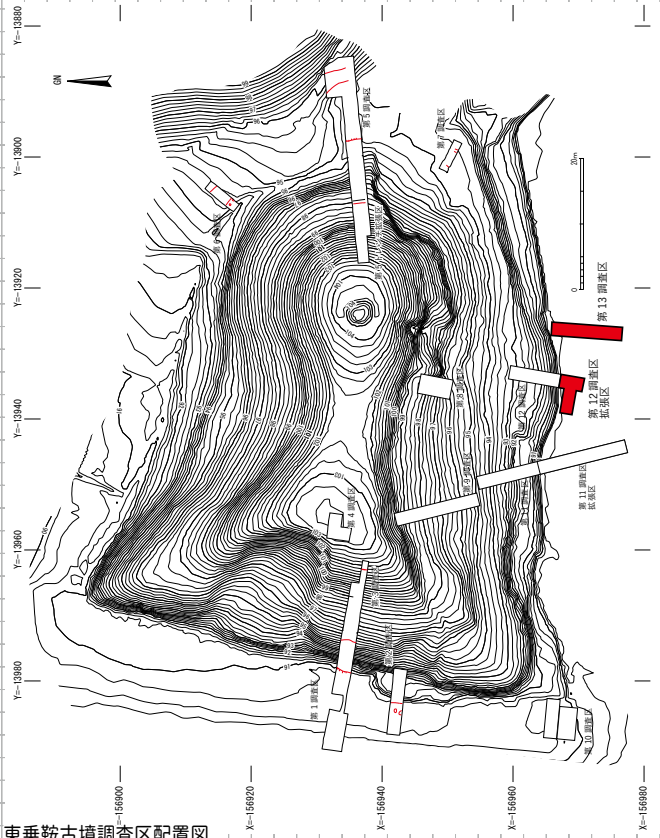
期間 令和7年2月12日～
令和7年2月25日



東乗鞍古墳地形起伏図

ひがしのりくら おとぎちよう
東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第8次調査では、主に前方部の南側を調査しました。

今回は前方部南側の調査でした。周濠や外堤が見つかっており、第13調査区では周濠底から古墳の葬送儀礼にかかわる可能性がある須恵器や土師器が出土しました。



東乗鞍古墳調査区配置図



周濠底の土器出土状況 (第13調査区)

平等坊・岩室遺跡 第39次

びょうどうぼう・いわむろいせき

3



期間 令和6年11月18日～
令和6年12月6日

平等坊・岩室遺跡は天理市平等坊町・岩室町一帯に広がる、弥生時代を中心とした集落遺跡です。平等坊町での宅地造成に伴い、発掘調査をおこないました。

調査では、調査区西半で自然流路を検出しました。これは、以前の調査（第28次調査・第35次調査）で見ついていた流路と同一のものとみられます。今回の調査区は第28次調査の調査区および第35次調査の調査区に挟まれた場所にあり、1本の流路が東から西へ蛇行しながら流れていたことが判明しました。流路からは弥生時代中期～奈良時代の遺物が多く出土し、長い時間をかけて流路が埋没していったものとみられます。

また、流路内からは井戸も検出されました。正方形の井戸枠の下には木製の曲物が3段積まれており、かなりの深さまで井戸を掘っていたことがわかります。曲物のうち、原形を保ったまま持ち帰ることのできた下の2段については、現在保存処理中です。曲物の底部付近からは完形の黒色土器碗が出土し、底面に煤が付着していない古いタイプの黒色土器であることから、平安時代前期頃のものともみられます。よって、この井戸も同時期に掘られたものと推測されます。



調査区全景（東から）



自然流路（北東から）



流路内土器出土状況



井戸出土状況（南から）



井戸内から出土した黒色土器碗

平等坊・岩室遺跡 第40次

びょうどうぼう・いわむろいせき ④



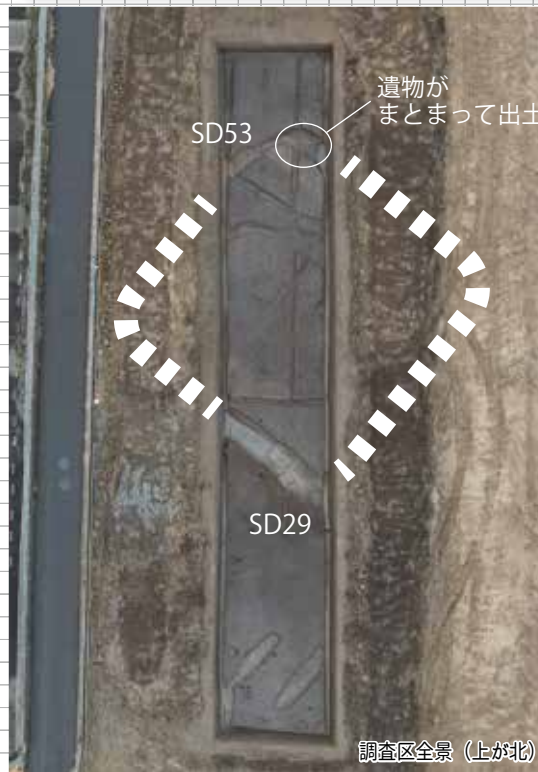
期間 令和6年11月18日～
令和7年1月10日

平等坊・岩室遺跡は、天理市平等坊町一帯に広がる弥生時代の拠点集落です。これまでの調査成果により、弥生時代前期から後期末にかけて多数の環濠^{かんごう}を確認しています。今回の調査地はこの環濠の外側、集落の中心地から見て北東に位置しています。調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}1基を確認しました。

方形周溝墓となるのはくの字に屈曲した形状やまとまって出土した遺物の状況からSD53と考えられ、この溝と同規模のものはSD29であり、溝の方向からみても周溝となる可能性は高いと考えられます。また墳丘に関しては削平されほとんど残されていませんでしたが、SD53のすぐ南で黒褐色土に黄橙色粘土ブロックの混じる人為的な盛土とおぼしき堆積が残存していました。さらにこの堆積の南には黄灰色粘土層がSD29の北まで広がっており、周溝となる溝の間でのみ見られることから黄灰色粘土層も盛土と考えられます。したがってこの方形周溝墓は南北の1辺が約14mの規模になると想定されます。



空から見た平等坊・岩室遺跡(北から)



調査区全景(上が北)



SD53(北東から)



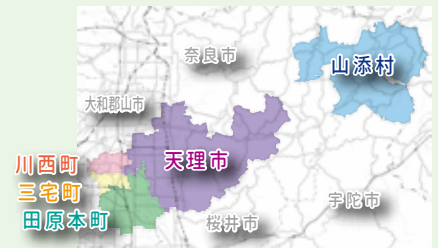
SD53 遺物出土状況(南から)



SD53 遺物出土状況(北から)

大和まほろば 広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町・山添村は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市

文化財課公式Xはじめました

天理市の豊かな歴史文化に気軽に親しんでいただくため、天理市教育委員会文化財課の公式X [@tenri_bunkazai](#) を令和7（2025）年10月からスタートしています。

遺跡・古墳の発掘調査情報や文化財展示の見どころ、各種文化財の紹介、イベント開催情報など、市内文化財の最新情報を幅広く発信していきます。文化財課公式X [@tenri_bunkazai](#) のフォローをよろしくお願いいたします。



X [@tenri_bunkazai](#)



天理市文化財課公式X

■天理市 文化財課公式Xはじめました

川西町

糸井神社

川西町結崎の糸井神社拝殿で、1月3日に能楽師による「神歌」と、地元の能楽クラブである結崎観世会による、仕舞等の奉納を行いました。これは、結崎が観世流発祥の地として観世流能楽師の間で認識されており、加えて糸井神社の近隣に、観世流能の発祥伝承を伝える面塚があることから、昭和49年より毎年執り行われています。糸井神社拝殿では、過去に現・観世流宗家も、昇殿・奉納されており、観世流にとって、結崎が特別な地であることを物語ります。



■川西町 糸井神社

三宅町

奈良盆地の真ん中にあった港「但馬のはま」

近鉄但馬駅の東側、飛鳥川に架かる橋の一つに、「船つき橋」という橋があります。かつてこの辺りは「但馬のはま」と呼ばれ、江戸時代より大和川船運の飛鳥川筋の船着場でした。大阪からは肥料（干鰯、油粕）、塩、雑貨などが上がり、大和からは米、綿、雑穀などの農産物が下っていきました。交通インフラの整っていない当時において、重要な輸送手段として盛んに利用されていましたが、明治25年の大阪鉄道（現、JR関西線）の開通によって姿を消すに至りました。



■三宅町 但馬のはまの名残り「船つき橋」

田原本町

「ミュージアム部」メンバー募集

令和8年度から中学校の土曜・日曜日の部活動を地域が支える体制に移行することを受けて、唐古・鍵考古学ミュージアムでは通年ワークショップ「ミュージアム部」を開催します。ミュージアム部では、参加者が「やりたいこと」を話しあって活動内容を決め、地域の大人達が参加者の主体的な活動を全力で実現します。地域の展示施設を軸とした活動を通して、同世代の学びあいを誘発し、「答えのない問い」に向き合うきっかけ作りができればと考えています。



■田原本町 「ミュージアム部」メンバー募集

山添村

史跡 毛原廃寺跡

毛原廃寺跡は、奈良時代前期に建てられたと考えられている、古代の大寺院跡です。都から遠く離れた場所にありながら、今も残る礎石には平城京の著名な大寺院と同等の高度な技術が用いられており、当時この地に壮大な寺院が存在していたことを物語っています。しかし、寺の名や建立の経緯を伝える史料は一切残されていません。そのため、地名にちなみ「毛原廃寺」と呼ばれています。記録に残らない幻の大寺院や人々に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



■山添村 史跡 毛原廃寺跡